

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式									
EU41B201		授業研究・子ども理解総合演習Ⅱ (Comprehensive Seminar of Lesson Study & Understanding Student Ⅱ)					実践演習科目											
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修		2	1	教育学研究科	前期	水1	氏名 内田昭利, 藤村 晃成, 後藤竜太											
							E-mail a-uchida@oita-u.ac.jp 内線 7545											
授業の概要		本授業においては、子ども理解に関する認識を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。実践的な教育相談の原理や学習支援の方法を理論的に学ぶとともに、より具体的・客観的に子ども理解するための実践的知識や方法について理解を深め、学校現場の事例を題材として現状の諸課題を発見し、具体的な対応策を立案・検討することができるようになることを目的とする。子ども理解の実践例を具体的に取り上げ、学級経営における学習支援事例を検討する。また、ロールプレイ等を通じて、実践力を確かなものにする。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 子ども理解するための教育相談、学習支援に関する実践的知識について理解できる。															○	○		
目標2 学校現場の事例を題材として現状の諸課題を発見できる。															○	○		
目標3 現状の諸課題に対する具体的な対応策を立案・検討できる。															○	○		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 授業テーマに関する学校の具体的課題の理解																		
2 教育相談の意義、現状と課題に関する講義																		
3 子ども理解の実践演習(1) 理論と実施における留意点(前半)																		
4 子ども理解の実践演習(2) 実例によるロールプレイ演習(前半)																		
5 子ども理解の実践演習(3) 省察と活用策の立案・検討(前半)																		
6 子ども理解の実践演習(4) 理論と実施における留意点(後半)																		
7 子ども理解の実践演習(5) 実例によるロールプレイ演習(後半)																		
8 子ども理解の実践演習(6) 省察と活用策の立案・検討(後半)																		
9 事例検討フィールドワーク(1) 児童生徒の問題行動に困りがある事例の検討																		
10 事例検討フィールドワーク(2) 家庭環境・地域環境に困りがある事例の検討																		
11 学級経営における学習支援の課題に関する講義																		
12 学級経営における学習支援事例検討																		
13 学級経営における学習支援の方法に関する講義																		
14 学級経営における学習支援のロールプレイ演習																		
15 全体を通した学習成果の発表と総括																		
ラック ニ ン グ		A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		☐ ☐ ☐ ☐		プレゼンテーション, ディスカッション, バズセッション, フィールドワークなどを行う場合がある		工夫 その他										
時間外学習の内容と時間の目安		準備 学修 事後 学修		プレゼン準備 (10h) 文献, インターネット等を用いた事例研究 (10h)														
教科書		・小学校学習指導要領、平成29年3月告示、文部科学省、ISBN:4491034605 ・中学校学習指導要領、平成29年3月告示、文部科学省、ISBN:4827815798 ・高等学校学習指導要領、平成30年3月告示、文部科学省、ISBN:4827815674																
参考書		授業中に指示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題・討論の取組など)					70%	○	○	○									
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)					30%	○	○	○									
注意事項																		
備考																		
リンク																		
		URL																

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務経験	内田昭利（小，中，盲学校）/後藤竜太（小学校，教育委員会事務局）
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	教員養成実地指導非常講師による授業を予定している。
実務経験を いかした教 育内容	教諭として，学校現場や学校カウンセリング等の実務経験に基づく子ども理解の指導を行う。